

都道府県名	石川県
-------	-----

・学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	松任市立北星中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	5	6	1	17	35
生徒数	196	197	213	3	609	

・研究の概要

1. 研究主題

「生きる力」を磨くためには  
自ら学び、自ら考え、問題解決する力の育成と向上をめざして

2. 研究内容与方法

（1）実施学年・教科

全学年・全教科を原則として対象とした。生徒一人ひとりが能力を発揮できる場は個々により様々であり、あらゆる機会を捉えて指導するだけでなく、取り組んだ成果を評価する場をしっかりと設定するためには全学年・全教科で取り組むことが必要と考えたため。

（2）年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個に応じた指導のための指導方法・指導体制の改善</li> <li>・生徒の学力の評価を生かした指導の改善</li> <li>・多様な選択教科に多様なコースの開設</li> </ul> <p>研究の見通し（仮説）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての生徒に基礎・基本の徹底を図る授業づくりをめざす。</li> <li>・評価計画を一体化した指導計画と指導案の研究を推進する。</li> <li>・単位時間、単元ごと等に評価を積極的に取り入れ、生徒のつまずきに対して、きめ細かな支援を図る。支援の具体化。</li> <li>・選択授業において、開講する講座のねらいを示し、評価の観点を明確にする。</li> </ul> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学びたい、学んでみようという欲求が芽ばえる授業づくりをめざす。</li> <li>・「学習態度」、「学習技能」の定着をめざす。</li> <li>・結果・結論を生む過程を大切にする授業づくりをめざす。</li> <li>・我々教師の指導・評価技術の向上をめざす。</li> </ul> <p>これらを具体化する方策として、学習指導案に評価場面や評価の実際等を盛り込んだものへの改訂に着手した。また、日々の指導・評価に大きく関わる部分として、補助簿の在り方についても見直そうと考えた。研究に連動するものとして、学習指導の方向性についても再考し、以下の3つを柱として日々の学習指導に努めた。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教科内容の精選をはかり、基礎・基本（基礎学力）の定着をめざす。</li> <li>2. 個に応じた指導、すなわち、習熟度に応じた指導（補充・発展学習）の充実をめざす。</li> <li>3. 主体的に取り組む態度を育成する。</li> </ol>
--------	--

平成16年度

テーマ

- ・ 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の改善
- ・ 生徒の学力の評価を生かした指導の改善
- ・ 多様な選択教科に多様なコースの開設

研究の見通し（仮説）

- ・ すべての生徒に基礎・基本の徹底を図る授業づくりをめざす。
- ・ 評価計画を一体化した指導計画と指導案の研究を推進する。
- ・ 単位時間、単元ごと等に評価を積極的に取り入れ、生徒のつまずきに対して、きめ細かな支援を図る。支援の具体化。
- ・ 選択授業において、開講する講座のねらいを示し、評価の観点を明確にする。

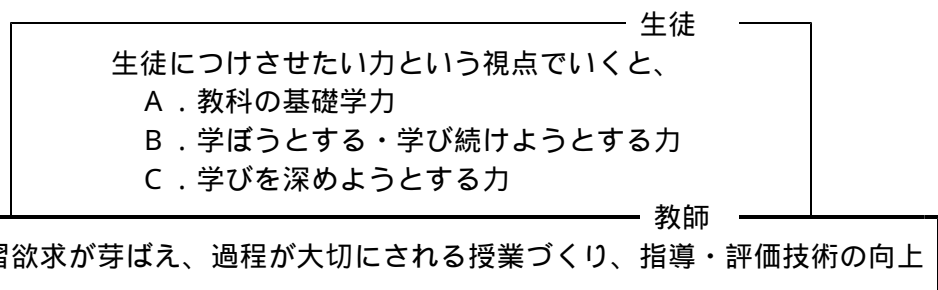
研究の内容・方法

- ・ 学びたい、学んでみようという欲求が芽ばえる授業づくりをめざす。
  - ・ 「学習態度」、「学習技能」の定着をめざす。
  - ・ 結果・結論を生む過程を大切にする授業づくりをめざす。
  - ・ 我々教師の指導・評価技術の向上をめざす。
- 学習指導案の充実と補助簿をより評価・支援に結びつく継続的な活用が見込めるものへの創意工夫・改善を各教科部会を中心として推進していく。

さらに、各学年の生徒の実態をしっかり現状分析する必要あり。＜分析・把握＞  
どんな力をつけさせたいのかをより具体化する必要あり。＜目標設定＞  
その力をどこまで向上させたいのか明確にする必要あり。＜到達設定＞  
その力を測る具体策を用意しておく必要あり。＜判定＞

そのために、

力の具体化  
(目標設定)



到達地点

の明確化及び判定

(到達目標設定と判定)

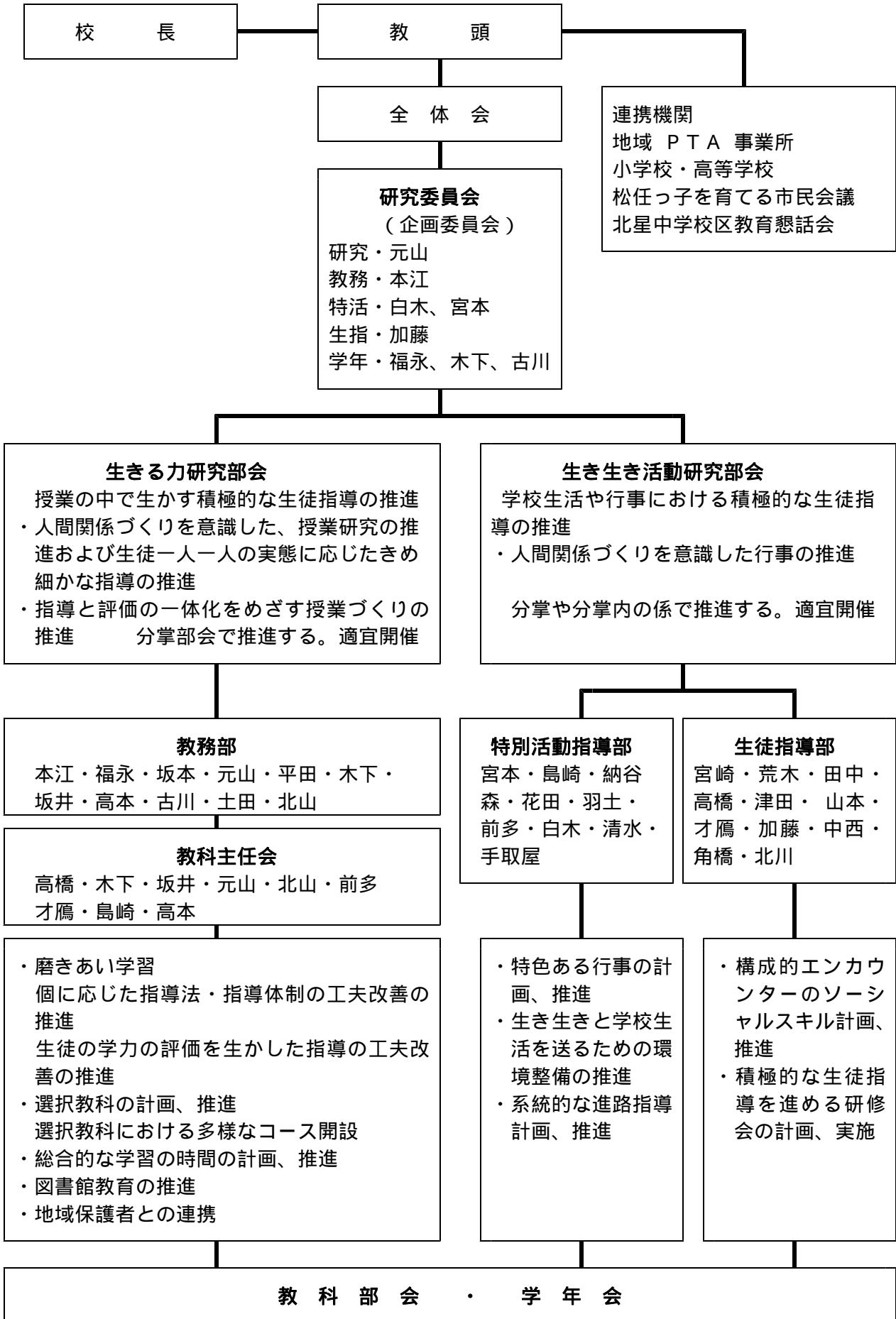
Aに関しては、教科内容の精選、基礎・基本の定着は欠かすことができない要素となる。

〔学習指導要領に示された内容であるが、  
各教科で各単元においてさらなる絞り込みが必要では〕

Bに関しては、課題に対する発表内容・頻度、ワークシートへの書き込みや感想等で判断していく。

Cに関しては、評価基準に照らし合わせて、そのレベルを知る。感想等

( 3 ) 研究推進体制



## 平成15年度の研究成果及び今後の課題

( )内%は、本年度教職員による学校評価より

### 1. 研究成果

- ・指導案に評価場面や評価の具体的方策を盛り込むことで、定期テストに頼りすぎていた評価から、日々の指導過程の中での評価の大切さを少しずつ意識できるようになった。評価の観点の特性に応じて、評価場面の設定を事前に考え授業を展開する意識が高まってきたようである。  
(たいへんよくできた31%・まずまずできた62% 計93%)
- ・校内研修を通じて見直しをはかったことで、補助簿の在り方については、生徒の特性を日々書き留めよりの確な評価へつなげていくものであり、またそのように生徒の日々の活動を認めることが意欲を喚起することであるという教職員の意識づけができた。指導・評価、そして、支援の流れを念頭に置いた学習指導が進められるようになった。  
(たいへんよくできた7%・まずまずできた71% 計78%)
- ・基礎・基本の定着に重点を置いて授業を実践することができた。  
(たいへんよくできた11%・まずまずできた82% 計93%)
- ・結果・結論を導き出す過程を大切にされた授業が行われた。  
(たいへんよくできた3%・まずまずできた79% 計82%)
- ・小テストの実施や宿題によるふり返りを多く取り入れた。
- ・定期的にコンテストを組み込むことで、学習意欲を喚起した。
- ・少人数・習熟度別授業により、学習の充実をはかった。  
(数学・英語における少人数・習熟度別授業、各教科の夏の補習)
- ・夏休み中に、個々の興味・関心に沿った学習の機会を与え、教師の協力と支援のもと学習の深化を進めた。
- ・まず、「できる」ことを「わかる」ことより優先させ、できる喜びと達成感を味わせ、学習に対する意欲と自信をもたせるように努めた。(反復練習・再テスト)

### 2. 今後の課題

- ・本年度の基本的な流れ、つまり、改訂された指導案に基づく授業づくりと補助簿の活用の創意工夫を我々教師集団の意識改革の起点として、生徒にその効用をいかに与えていけるかがとても大きな課題となる。実用化に向けての試行錯誤と実践の積み重ねをしっかりと推進したい。
- ・研究を学校全体の取り組みへと浸透させていくための工夫として、各教科の教科主任会のさらなる活用と、教科として研究の趣旨に沿った独自の取り組みをいかに引き出していけるかも重要な課題である。
- ・基礎・基本とは何か吟味し、厳選された教材を学校の授業を通してしっかりと学ばせ、家庭学習の充実という両面からその定着をめざしたい。
- ・学びたい・学んでみようという意欲が芽ばえる授業が十分にできているとは言い難い。  
(よくできている・できている65%対し、あまりできていない34%)  
教科部会を中核とし、教科の特性を生かした興味・意欲の喚起につながる授業改善を具体的提案してもらうこと、単元の中でも、比較的設定しやすいと思われる導入時を中心に設定・実践を求めている。

### 学力把握のための学校としての取組

- ・3年生が5月に5教科の基礎学力調査を実施している。3年生であるが、範囲が1、2年のものであり、その結果を踏まえて、1、2年時の指導の在り方を検討することができる。とくに、正答率が低いと思われる分野を中心に見直しをはかる。
- ・他に学年共通に前期・後期それぞれ中間・期末テストの実施(6月上旬、9月中旬、12月上旬・3月上旬)しており、各学期ごとの既習事項の定着度のチェックと通知簿の評定・評価に活用している。
- ・他に、1、2年生では、広範囲の学力の定着度を探る目的で、復習テストを8月下旬と2月中旬に実施しており、学年進級後からテスト実施時期までの既習事項を範囲と設定している。

・フロンティアスクールとしての研究成果の普及

・平成16年11月18日(木)に学力向上フロンティア研究発表会を開催予定

~~~~~  
次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- |                      |               |                 |     |       |
|----------------------|---------------|-----------------|-----|-------|
| 【新規校・継続校】            | ・15年度からの新規校   | 14年度からの新規校      |     |       |
| 【学校規模】               | 3学級以下         | 4～6学級           |     |       |
|                      | 7～9学級         | 10～12学級         |     |       |
|                      | 13～15学級       | ・16学級以上         |     |       |
| 【指導体制】               | ・少人数指導<br>その他 | T.Tによる指導        |     |       |
| 【研究教科】               | ・国語           | 社会              | ・数学 | 理科    |
|                      | ・外国語          | 音楽              | 美術  | 技術・家庭 |
|                      | 保健体育          | ・その他(数・英中心に全教科) |     |       |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 |               | ・有              | 無   |       |